

## 1 単元 「社会保障制度」

## 2 指導観

- 年収 200 万円未満で働く人が全労働者の 33%を超える中でコロナ禍は、厳しい生活状況に生きる人々の生活を困窮化させた。一方で、株価はバブル期以来の高値を記録し、格差拡大が進む中で、年金・医療・生活保護だけでなく全ての生活部面での社会保障の充実が求められている。

本単元は、持続可能な社会保障制度の在り方を模索することを通して、日本国憲法第 25 条の生存権に基づく社会保障は、困窮者のみならず全ての人が安心して生活できるためのものであり、社会保障が充実することは、民主主義社会の安定につながることを捉えることをねらいとしている。学習内容としては、コロナ禍における貧困の実態、憲法の人権規定、財政と税制、我が国と諸外国における社会保障制度、貧困の連鎖、所得の再分配と税の公平性、社会保障制度の「持続可能性」、財政の意義と役割、社会保障制度と民主主義の関係などである。これらの学習内容を持続可能性の視点から分析し、ベーシックインカム制度導入の是非を検討することで、制度の維持に必要な要素を見だし、社会の安定のために社会保障制度が果たす役割に気付くことができる。

以上により、本単元を学習することは、効率と公正の視点から意見を調整しながら合意を形成する意義をつかむとともに、社会保障制度と民主主義の関係を再認識するうえで大変意義深い。

- 本学級の生徒は、事前のアンケートで「社会保障制度の役割は何か」と問うと、〇%の生徒が「貧困対策や老後の生活のため」、〇%の生徒が「生存権の保障」と答えた。社会保障制度が、個人の責任や自助努力のみでは対応できないリスクに対して、相互に連帯して支え合うことにより安心した生活を保障したり、自助や共助では対応できない場合には必要な生活保障を行ったりするものであることについては概ね気付いているといえる。一方で、「所得の再分配」や「経済安定機能」、「民政の安定による民主主義政治の基盤づくり」ということについて述べている生徒はほとんどいなかった。また、「貧困は自己責任か」と問うと、〇%の生徒が「自己責任である」と答えた。このことから、社会保障制度を共助や公助のための制度であると認識し、必要に応じて利用するものであると気付いているが、貧困が社会的問題であり、拡大する格差解消のために社会保障制度が担う役割の存在に気付いていない。学習活動においては、〇%の生徒が個人ではなくペアや小集団での意見交流を好んでいる。理由は「他者の意見によって気付かなかった点に気づき、新たな考えにたどり着くことがある」、「他者の意見との比較を通して、自らの意見を修正することができる」と述べている。そこで、互いに根拠のある意見を形成させていく必要がある。
- 本単元の指導にあたっては、ベーシックインカム制度の是非を検討させることで、社会保障制度を負担と給付の関係から吟味させ、持続可能な社会保障制度の在り方を探らせた。そのためにも、現代の貧困の実態について調べさせる。ここでは、貧困が個人的問題ではなく、社会的課題であることに着目させるために、YouTuber の発言が炎上した理由を問う。次に、政府の経済活動の役割や意義を明らかにさせる。ここでは、財政の悪化がもたらす影響を指摘させるために、国債残高を提示し、財政政策の問題点と社会保障制度への影響を指摘させる。また、人口構成と社会保障制度の関係に着目させるために、国民皆年金・国民皆保険導入時の社会状況を分析させる。さらに、ベーシックインカム制度導入の是非を議論させる。ここでは、ベーシックインカム制度を多面的に分析させるために、三角ロジックを用いた立論を促し、同意見の者同士で意見を交流させる。また、導入の是非について述べ合わせた後、社会保障制度の将来像を考察させるために、社会保障制度が持続可能なものになるために必要な事柄を問う。最後に、今後の日本の社会保障制度の姿を提案させる。ここでは、社会保障制度が民主主義に与える影響を捉えさせるために、民生の不安定な国家の姿を例示し、結論を反証させる。

## 3 目標

- 社会保障制度の在り方を提案する際、日本国憲法や経済の言葉を用いて説明することができる。
- 社会保障制度の在り方を提案する際、負担と給付の関係、財源の有限性、人口構成の変化、自助・共助・公助のバランスなどの制度の持続可能性の視点を考慮している。
- 社会保障制度の在り方を提案する際、民主主義社会の実現という制度の役割を踏まえ、より豊かな社会の姿を示そうとしている。

4 計画 (8時間)

知：知識・技能 思：思考力・判断力・表現力

態：主体的に取り組む態度

次	時	学習活動・内容	手だて (○) 研究に関する手だて (◎)	評価規準
一	2	<p>1 社会保障制度の意義を捉える。</p> <p>(1) 貧困問題の実態を調べる。 ・生存権と幸福追求権 ・現代社会の貧困に対する意識</p> <p>(2) 貧困対策を考察する。 ・社会保障制度の役割</p>	<p>○ 貧困が社会的課題であることに着目させるために、Youtuber の発言が炎上した理由を問う。</p> <p>◎ 社会保障制度に対する探求意欲を喚起するために、ベーシックインカム制度の可能性を問い、検証の論点を電子ホワイトボードで共有させる。</p> <p style="text-align: center;"><b>【C2】</b></p>	<p>態：現代の貧困問題を生存権の保障という人権の面から捉えようとしている。</p> <p>態：ベーシックインカム制度の可能性を貧困対策に有効かどうかを検証しようとしている。</p>
「ベーシックインカム制度導入の是非を判断し、これからの社会保障の在り方を提案しなさい」				
二	4	<p>2 政府の経済活動の役割や意義を明らかにする。</p> <p>(1) 財政の現状を調べる。 ・歳入と歳出のバランス ・財政活動の果たす役割</p> <p>(2) 日本の社会保障制度の現状を調べる。 ・少子高齢社会の将来 ・自助、共助、公助の在り方</p> <p>(3) 日本と外国の社会保障制度を比較する。 ・受益と負担の均衡 ・低福祉低負担と高福祉高負担</p> <p>(4) ベーシックインカム制度のメリットとデメリットを調べる。 ・所得の再分配 ・貧困の畏</p>	<p>○ 財政の悪化がもたらす影響を指摘させるために、国債残高を提示し、財政政策の問題点を指摘させる。</p> <p>◎ 人口構成と社会保障制度の関係に着目させるために、国民皆年金・国民皆保険導入時の社会状況を分析させる。</p> <p style="text-align: center;"><b>【B7】</b></p> <p>○ 社会的共助を実現する方法に着目させるために、日本に適した制度を選択させ、話合わせる。</p> <p>◎ ベーシックインカム制度を多面的に分析させるために、三角ロジックを用いた立論を促す。</p> <p style="text-align: center;"><b>【B2】</b></p>	<p>知：歳出の拡大が社会保障に与える影響について説明することができる。</p> <p>知：現行の社会保障制度の限界を人口構成の変化から説明することができる。</p> <p>思：負担と給付の関係から、社会保障制度の違いがもたらす社会の在り方について述べている。</p> <p>思：メリット・デメリットを比較し、自分の意見を立論することができる。</p>
三	1 本 時	<p>3 ベーシックインカム制度導入の是非を議論する。 ・受益と負担の均衡 ・権利としての社会保障</p>	<p>◎ 導入の是非について述べ合わせた後、社会保障制度の将来像を考察させるために、社会保障制度が持続可能なものになるために必要な条件を問う。</p> <p style="text-align: center;"><b>【C2】【C6】</b></p>	<p>思：社会保障制度が持続可能なものになるために必要条件を受益と負担の均衡の観点から述べることができる。</p>
四	1	<p>4 今後の日本の社会保障制度の姿を提案する。 ・持続可能な社会保障制度 ・社会保障と民主主義の社会の関係</p>	<p>○ 社会保障が民主主義に与える影響を捉えさせるために、民生の不安定な国家の姿を例示し、結論を反証させる。</p>	<p>態：民主主義を安定させるための社会保障制度の在り方を追究しようとしている。</p>

5 本 時 令和3年〇月〇日 (〇) 第4校時 計画 第三次の1 3年〇組教室にて

(1) 主 眼

- ベーシックインカム導入の是非を論じることを通して、持続可能な社会保障制度の必要な条件を見いだすことができる。

(2) 準 備

- ① 社会保険と生活保護の財源 ② 三角ロジック ③ AIによるOECD諸国の労働置換率
- ④ ベーシックインカム導入実験の効果 ⑤ 国民負担率と経済成長率

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	手だて (○) と評価 (◇)	形態	配時
<p>1 同一グループ内で意見交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会保障制度の財源問題</li> <li>・ 所得別の受益率</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 社会保障が持続可能なものになるための条件を見いだそう</p> </div>	<p>①</p> <p>②</p>	<p>○ ベーシックインカム制度を多面的に捉えさせるために、現在の社会保障制度の財源を提示して、共助と公助の違いについて問う。</p> <p>○ 主張の論点の違いに着目させるために、前時で調べた内容を共有させ、相互の意見を見直すように指示する。</p>	<p>一斉 ↓ 小集団</p>	<p>10</p>
<p>2 ベーシックインカム導入の是非を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 賃金への影響</li> <li>・ 社会保障がもたらす民生の安定</li> <li>・ 自己責任に基づく社会の困難さ</li> </ul>	<p>③</p> <p>④</p>	<p>◎ 話し合いを活性化させるために、論点ごとに発言を促すとともに、賛否相互の三角ロジックを閲覧可能な状況にして、話し合わせる。</p> <p style="text-align: right;"><b>【C6】</b></p> <p>○ 議論が財源論に偏っている場合に、今後の労働の変化に気がつかせるために、AIの普及による雇用の自動化を示す資料を提示する。</p> <p>○ 議論が否定派に偏っている場合は、社会保障の役割である民政の安定化に気がつかせるために、実証実験を行った国での幸福度の変化を示す資料を提示する。</p> <p>○ 議論が肯定派に偏っている場合は、現行の社会保障の有効性をつかませるために、ベーシックインカムだけの社会保障になった場合に、どのような状況になるかを問う</p>	<p>一斉</p>	<p>20</p>
<p>3 社会保障制度を持続的に維持するために必要な条件を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自助、共助、公助のバランス</li> <li>・ 所得の再分配による中間層のリスク回避として社会保障の役割</li> </ul>		<p>◎ 条件を見いださせるために、賛否の意見に共通する課題を問い、電子ホワイトボードで条件を集約させる。</p> <p style="text-align: right;"><b>【C2】</b></p>	<p>個 ↓ 一斉</p>	<p>15</p>
<p>4 必要な条件を共有し、これからの社会保障の在り方を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国民負担率と経済成長との関係</li> </ul>	<p>⑤</p>	<p>○ 負担増加が必ずしも、成長の鈍化につながらないことに気づかせるために、主要国の経済成長率の推移を提示し、国民負担率と経済成長率の関係を問う。</p> <p>◇ 社会保障制度が持続可能なものになるために必要な条件を受益と負担の均衡の観点から述べているか。 ＜イメージマップ分析＞</p>	<p>一斉</p>	<p>5</p>